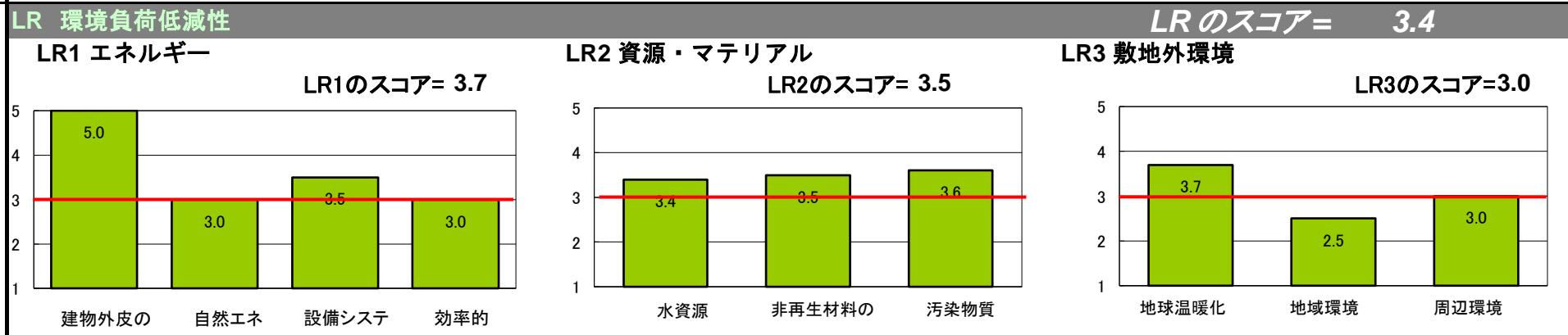
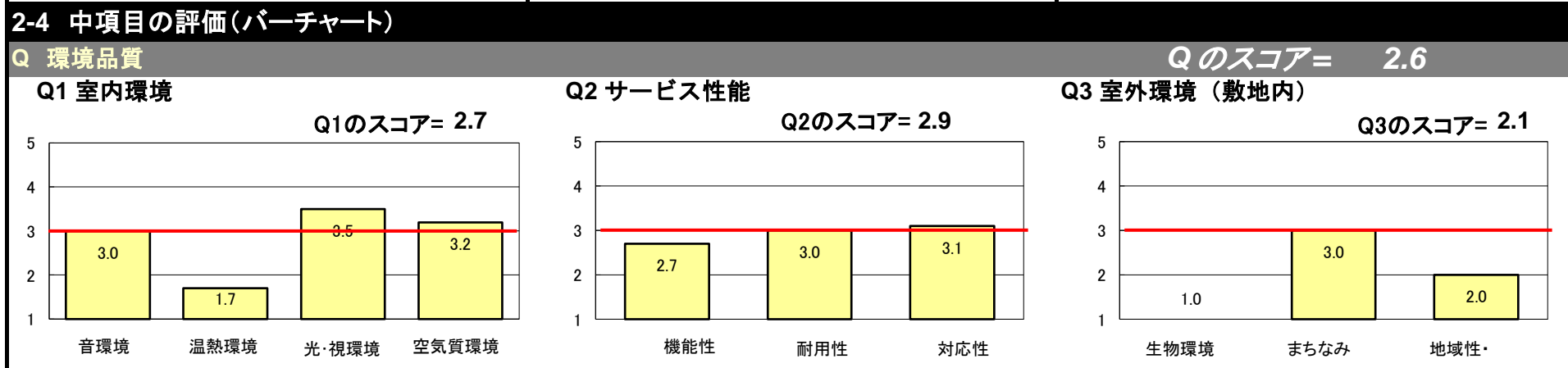
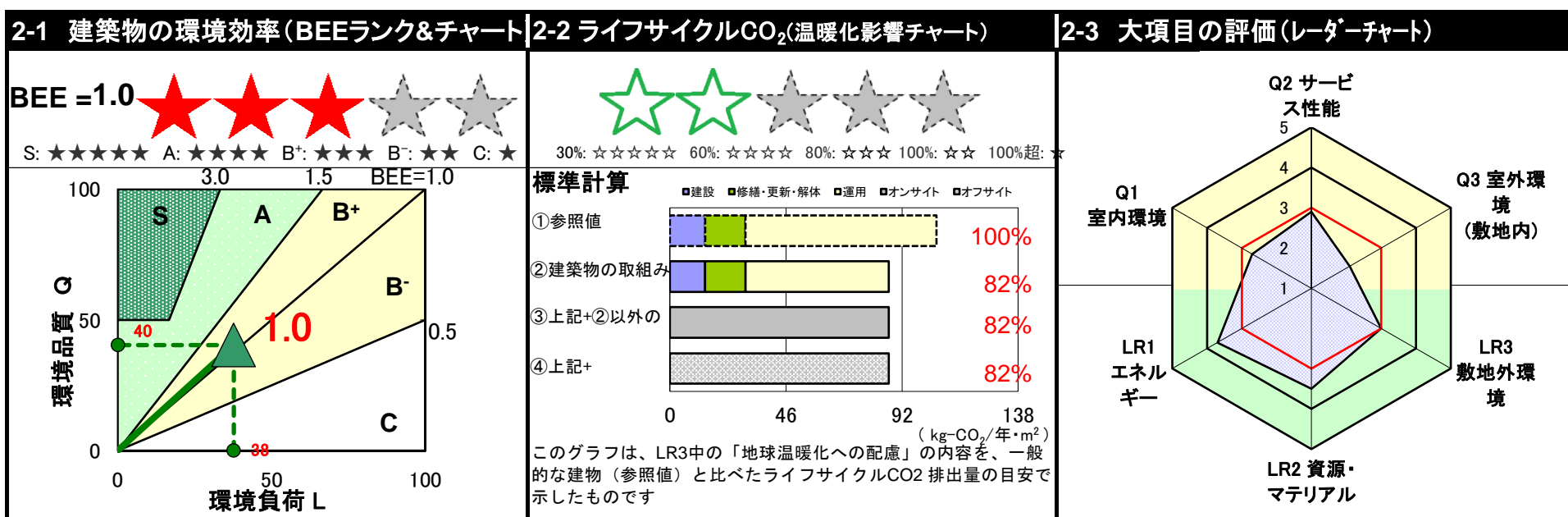


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ガイド株式会社 三河支店	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県安城市東栄町6丁目3-6、3-7	構造	S造
用途地域	工業地域、防火地域 指定なし	平均居住人員	150 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年06月 予定	評価の実施日	2020年09月20日
敷地面積	1,886 m ²	作成者	加治木 成之
建築面積	891 m ²	確認日	2020年10月01日
延床面積	2,981 m ²	確認者	加治木 成之



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p>3.7</p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<p>②資源の有効活用</p> <p>3.2</p>	<p>④地域材の活用</p> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		0.1	3.0	0.15	-	-	-	-	2.6	
1.2 遮音										
1	開口部遮音性能	3.0	3.0	0.40	-	-	-	-	2.7	
2	界壁遮音性能	0.4	3.0	0.40	-	-	-	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	3.0	0.60	-	-	-	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	-	3.0	0.40	-	-	-	-		
1.3 吸音										
		-	3.0	0.20	-	-	-	-		
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1	室温	0.3	1.7	0.35	-	-	-	-	1.7	
2	外皮性能	0.5	2.5	0.50	-	-	-	-		
3	ゾーン別制御性	3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
2.2 湿度制御										
		3.0	3.0	0.38	-	-	-	-		
2.3 空調方式										
		3.0	1.0	0.20	-	-	-	-		
		3.0	1.0	0.30	-	-	-	-		
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1	昼光率	0.2	3.5	0.25	-	-	-	-	3.5	
2	方位別開口	0.3	4.2	0.30	-	-	-	-		
3	昼光利用設備	3.0	5.0	0.60	-	-	-	-		
2.5% ≤ [昼光率]。										
3.2 グレア対策										
1	昼光制御	3.0	3.0	0.40	-	-	-	-		
3.3 照度										
照度が500lx以上1000lx未満。										
		0.3	3.0	0.30	-	-	-	-		
3.4 照明制御										
		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-		
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1	化学汚染物質	0.2	3.2	0.25	-	-	-	-	3.2	
JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。										
		0.5	4.0	0.50	-	-	-	-		
4.2 換気										
1	換気量	0.3	2.6	0.30	-	-	-	-		
2	自然換気性能	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
3	取り入れ外気への配慮	3.0	4.0	0.33	-	-	-	-		
自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。										
		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-		
4.3 運用管理										
1	CO ₂ の監視	0.2	2.0	0.20	-	-	-	-		
		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
2	喫煙の制御	3.0	1.0	0.50	-	-	-	-		
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1	広さ・収納性	0.4	2.7	0.40	-	-	-	-	2.7	
2	高度情報通信設備対応	0.4	2.3	0.40	-	-	-	-		
3	バリアフリー計画	3.0	1.0	0.33	-	-	-	-		
独自										
3	バリアフリー計画	3.0	3.0	0.33	-	-	-	-		
1.2 心理性・快適性										
1	広さ感・景観 (天井高)	0.3	3.6	0.30	-	-	-	-		
事務室の天井高2.9m以上。										
2	リフレッシュスペース	3.0	5.0	0.33	-	-	-	-		
執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置。										
3	内装計画	3.0	5.0	0.33	-	-	-	-		
		3.0	1.0	0.33	-	-	-	-		
1.3 維持管理										
1	維持管理に配慮した設計	0.3	2.5	0.30	-	-	-	-		
		3.0	3.0	0.50	-	-	-	-		
2	維持管理用機能の確保	-	2.0	0.50	-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	0.3	3.0	0.31	-	-	-	-	3.0	
2	免震・制震・制振性能	0.4	3.0	0.48	-	-	-	-		
		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数										
1	躯体材料の耐用年数	0.3	3.2	0.33	-	-	-	-		
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	-	3.0	0.23	-	-	-	-		
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	-	2.0	0.23	-	-	-	-		
床:床ビニルタイルt3.0→20年、壁:LGS+PB12.5不燃クロス貼→20年、天井:不燃化粧PP+0.5→20年										
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	-	5.0	0.09	-	-	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	-	3.0	0.08	-	-	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔	-	5.0	0.15	-	-	-	-		
主要用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。										
		-	3.0	0.23	-	-	-	-		
2.4 信頼性										
1	空調・換気設備	0.1	2.8	0.19	-	-	-	-		
		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
2	給排水・衛生設備	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
3	電気設備	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
4	機械・配管支持方法	3.0	3.0	0.20	-	-	-	-		
5	通信・情報設備	3.0	2.0	0.20	-	-	-	-		

3 対応性・更新性				0.2	3.1	0.29	-	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり				0.3	3.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	3.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ		0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.68。	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI _m =0.75。	3.0	3.5	0.30	-	-	-	3.5
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	床:長尺塩ビシート、磁器質タイル。	3.0	4.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGS使用している。	3.0	5.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。	-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率が、一般的な建物(参照値)に対して	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	I-1) 建物利用者のための適切な量の自転車置場の確保、駐輪場利用者の利便性への配。 II-1) 適切な量の駐車スペースの確保。 2) 管理用車両や荷捌き用車両の駐車施設の確保。 3) 駐車場の導入路(出入り口など)の位置や形状・数への配慮。	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.1	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ダイドー株式会社 三河支店

計画上の配慮事項	
総合	<p>利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 主要給排水配管は耐用年数が長い材料を使用している。 ライフサイクルコストの低減に努め、地球環境保護に配慮している。</p>
Q1 室内環境	<p>2.5% ≤ [昼光率]。 照度が500lx以上1000lx未満。 自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。</p>
Q2 サービス性能	<p>事務室の天井高2.9m以上。 執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>特になし。</p>
LR1 エネルギー	<p>BPI_m=0.68。 BEI_m=0.75。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>LGS使用している。 発泡剤を用いた断熱材等を使用していない。</p>
LR3 敷地外環境	<p>ライフサイクルCO₂排出率が、一般的な建物(参照値)に対して82%。</p>
その他	<p>特になし。</p>